令和５年度　松戸市立貝の花小学校いじめ防止基本方針

本校は，いじめ防止対策推進法第１３条により，「学校いじめ防止基本方針」を以下のように策定する。

第１　いじめの防止等のための対策の基本的な方向に関する事項

１　いじめの防止等の対策に関する基本理念

(1)　「いじめは人間として絶対に許されない」との強い認識を持つ。
(2)　いじめられている子どもの立場に立って親身な指導を行う。
(3)　いじめの問題は，教師の児童生徒観や指導の在り方が問われる問題であると理解する。
(4)　家庭・地域社会など全ての関係者と情報を共有し，連携を図り一体となっていじめ問題の克服に取り組む。

２　児童の責務

(1)　全ての児童は，いじめを行ってはならない。
(2)　全ての児童は，いじめを認識しながらこれを放置してはならない。
(3)　全ての児童は，いじめが心身に及ぼす影響その他のいじめの問題に関する理解を深めなければならない。

３　学校及び教職員の責務

(1)　学校及び学校の教職員は，関係者及び関係機関との連携を図りつつ，学校全体でいじめの防止及び早期発見に取り組まなければならない。
(2)　学校及び学校の教職員は，在籍する児童がいじめを受けていると思われるときは，適切かつ迅速にこれに対処しなければならない。
(3)　学校及び教職員は，すべての児童が，いじめが心身に及ぼす影響その他のいじめの問題に関する理解を深めるための機会を提供する努力をしなければならない。

４　いじめの定義（法２条）

児童等に対して，当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって，当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの。

第２　いじめの防止等のための対策の内容に関する事項

１　いじめ防止等のために学校が実施すべき施策

(1)　学校におけるいじめ防止等の対策のための組織等

ア　「いじめ防止等の対策のための組織」の設置

＜構成員＞
校長（総括），教頭（渉外），教務主任（調整，記録），生徒指導主任（指導），
学年主任（指導），養護教諭（支援），SSW，SC など関係機関と連携（支援）
※事案により柔軟に編成する。

イ　組織の役割

(ｱ)　学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施や具体的な年間計画の作成・熟考・検証・修正の中核としての役割

(ｲ)　いじめの相談・通報の窓口としての役割

(ｳ)　いじめの疑いに関する情報や児童生徒の問題行動などに係る情報の収集と記録，共有を行う役割

(ｴ)　いじめに対する組織的対応の中核としての役割

ウ　会議の開催

(ｱ)　年間２回（WEBQU　実施学年４～６年　会議後）の定例会と月１回の月例会議，その他必要に応じて朝の打ち合わせ時に生徒指導連絡会を実施

(ｲ)　いじめ事案が発生した場合はすみやかに集合し，緊急会議を実施

(2)　学校におけるいじめ防止等に関する措置

ア　未然防止

(ｱ)　わかる授業の実施

a　自己決定の場や自己存在感を与える

b　共感的人間関係を育成する。

c　言語活用科（日本語分野）や国語・道徳の授業を通じて，状況に応じた適切な言葉の使い方の指導

d　学習スタッフを導入した T2 指導，習熟度別の指導，取り出しの指導

e　外部講師を活用した授業

(ｲ)　道徳教育の充実

a　法やルールの意義や遵守の理解

b　基本的生活習慣や規範意識，自己肯定感，命の大切さ，思いやり等の道徳性の育成

c　主体的に判断し，適正に行動できる人間の育成

(ｳ)　豊かな人間関係づくり

a　ＷＥＢＱＵ調査を行い，迅速な人間関係の把握をする。調査の結果を児童理解や指導・支援，及びよりよい学級集団づくりへ活用する。管理職を含めた組織により取り組む。

b　松戸市版「豊かな人間関係作りプログラム」,「同左～いじめ防止プログラム編～」の活用

c　異学年集団での活動の充実
（なかよし交流会）

(ｴ)　規範意識の育成

a　いじめ防止対策推進法の周知

b　ネットリーフレットの活用による，ネットいじめ防止の啓発

c　生活規律や学習規律の確立

d　校内美化への意識づけ

e　全校朝会で生活目標を伝える（振り返りの内容は毎月放送にて周知）

(ｵ)　児童会活動を中心とした自治的活動

a　「ストップ・ザ・いじめ」子どもの心を耕すいじめ撲滅標語大作戦の実施
（５月末までに各学級のいじめ撲滅標語を作成し，教室や昇降口に掲示する。）

b　いのちを大切にするキャンペーンの取組

(ｶ)　教師の人権意識の向上

a　いじめ事例研修の実施

b　教職員の不適切な発言や体罰がいじめを助長することの共通理解

c　過度の競争意識等が児童のストレスを高め，いじめを誘発する可能性があることの共通理解

d　何らかの障害のある児童がいじめにあわないよう，毎月１回の職員会議において，特別支援教育コーディネーターを中心に特別支援教育についてミニ研修を行う。

e　モラールアップ研修の実施

f　多様性の理解

イ　早期発見

(ｱ)　定期的なアンケート調査と面談

a　月に１回，いじめアンケートの実施

b　１月の学校生活アンケートの実施

c　ヒアリング実施
７月（個人面談）１月（学校アンケート）

d　小４～６年生は，６月と１１月にＷＥＢＱＵ調査を実施
（７月，１２月に分析を行い，構成員で協議する）

(ｲ)　教育相談

a　学校職員（SC，SSW 含む）による教育相談日の年間開設（保護者向け）
学校だよりに記載　　毎週金曜日

b　必要に応じて保護者を含めた三者面談，二者面談の実施

c　日常の教育相談の充実及び「話す勇気」をもつ指導の充実

d　いじめアンケートや学校生活アンケートを受け，随時教育相談を実施する

(ｳ)　児童観察

a　生徒指導部会にて生徒指導連絡会を行い，いじめ事案についての共通理解と改善策を話し合う。

b　複数の職員による観察の実施及び学年会・職員会議等での共通理解（月１回）

c　昼休み・放課後等，授業時間外の児童の人間関係を観察する。

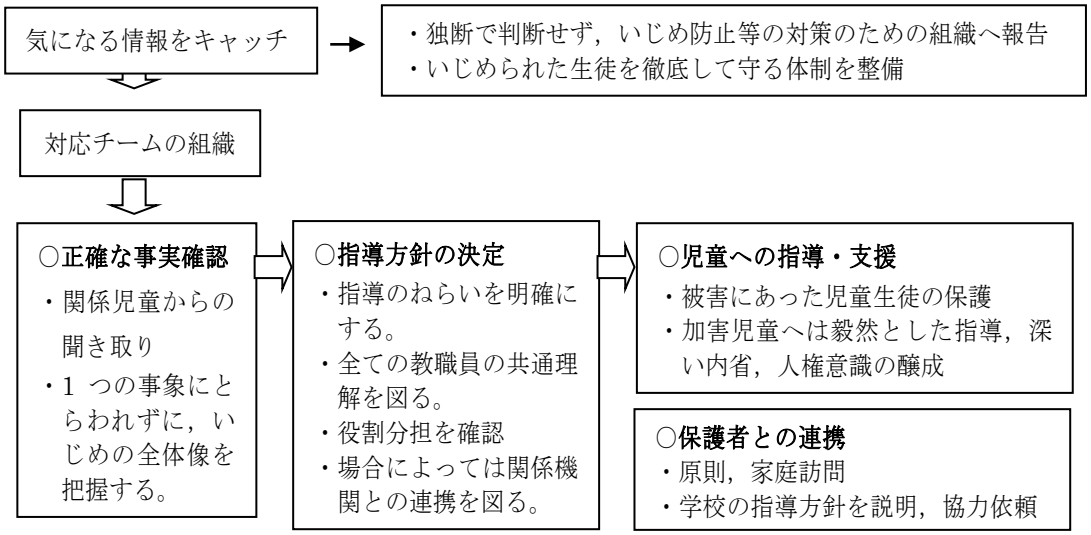
(ｴ)　相談窓口の周知

a　学校の相談窓口担当者（教頭）
悩みごと相談員（教頭）（養護）（担当１）
電話番号　０４７－３４４－８６１１

b　いじめ相談専用ダイヤルカードの配付

・いじめ相談専用ダイヤル　　０４７－７０３－０６０２
・松戸市役所子ども家庭相談課　　０４７－３６６－３９４１
・子どもと親のサポートセンター　０１２０－４１５－４４６

ウ　早期対応



(ｱ)　対応チームの発足

a　「いじめ防止等の対策のための組織」を中心に，速やかに対応する。

b　対応チームのメンバーは「いじめ防止等の対策のための組織」を基本とするが，部活動顧問や専門担当等，適切な対応ができるように，柔軟に構成する。

(ｲ)　正確な事実確認

a　１つの事象にとらわれずに，いじめの全体像を把握する。

b　複数名で聞き取りを行う。

c　まず，当事者（被害者）の話を傾聴し，次に相手側（加害者）の話を傾聴する。

d　いじめた児童がいじめられた児童や通報者に圧力をかけることのないように配慮する。

(ｳ)　指導方針の決定

a　指導のねらいを明確にする。

b　全教職員の共通理解を図り，役割分担を確認する。

c　場合によっては関係機関（警察，児童相談所等）との連携を図る。

d　いじめ問題対応マニュアルの活用

(ｴ)　いじめられた児童への支援

a　徹底して守り抜くことを本人・保護者に伝える

b　対応について説明して不安な点を聞き取り，対応策を示す。

c　表面的に解決したと判断せず，支援を継続する。

(ｵ)　いじめた児童への指導

a　いじめを行った背景を理解しつつ，行った行為に対しては毅然と指導する。

b　自分はどうするべきだったのか，これからどうしなくてはならないのかを内省させる。

c　保護者には事実を説明する。

d　学校による指導で改善が見られない場合は，懲戒等適切な措置を講じる。その際に，保護者の理解を十分に得るように留意する。

(ｶ)　観衆，傍観者への指導

a　いじめは学校全体の問題として対応する。

b　いじめは絶対に許されない行為であるということ，いじめ根絶に本気で取り組む姿勢を児童に示す。

c　人権意識の醸成を図る。

エ　継続支援

(ｱ)　チームによる見守り

a　いじめられた児童に安心感を与え，心のケアを行う。

b　教職員がシフトを組み，隙のない体制で見守りを行う。

(ｲ)　定期的な個人面談

a　いじめ解決から継続的に個人面談を行い状況を把握する。

b　スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーによる，面談や心のケアを実施する。

(ｳ)　家庭への定期連絡

a　児童との面談後，面談の結果や教師から見た学校の様子等を家庭に連絡する。

b　家庭での様子等を聞き，寄り添う姿勢を伝える。

(ｴ)　進級，進学にともなう引継ぎ

a　情報共有のもと，児童間の人間関係等の引継ぎを確実に行う。

b　小学校から中学校への進学に際しては，密に行う。

c　月例報告ファイル（聞き取りシート）を作成し金庫に５年間保管する。

オ　家庭，地域等との連携

(ｱ)　家庭との連携

a　学校いじめ防止基本方針等についてＨＰに掲載して保護者に周知し，理解を得る。また，日頃より情報共有しやすい関係を築く。

b　子どもの様子に変化が見られる際，すみやかに学校に相談するよう啓発する。

(ｲ)　ＰＴＡや地域との連携

a　学校いじめ防止基本方針等について地域に周知し，理解を得る。また，情報が入りやすいように日頃より連携をすすめる。

b　必要に応じて，ＰＴＡといじめ問題について協議する機会を設ける。

c　小金原学童保育所における児童の様子について，情報が入りやすいように日頃より連携を図る。

c　学校安全地域協力者会議（年３回実施）や民生委員・児童委員会議において，児童の問題行動等について情報交換を行い，対応について協議する。

カ　関係機関との連携

(ｱ)　松戸市教育委員会との連携

a　問題解決に向けて指導助言等必要な支援を受ける。

b　相談電話が入った場合等は情報提供を求める。

c　いじめの状況について報告し，情報を共有する。

d　出席停止措置について協議する。

(ｲ)　子ども家庭相談課，松戸市子どもわかもの課との連携

a　問題解決に向けて指導助言等必要な支援を受ける。

b　相談電話が入った場合等は情報提供を求める。

c　生活環境に問題がある場合には，情報提供をし，民生児童委員も含め協力して，生活環境の改善を図る。

(ｳ)　警察との連携

a　いじめが暴力行為や恐喝等，犯罪と認められる事案に関しては，早期に所轄の松戸東警察署や東葛少年センターに相談し，連携を図る。

b　所轄の松戸東警察署との連携を図るため，定期的にまたは必要に応じて，相互協力する体制を整えておく。

c　いじめが犯罪行為に相当し得ると認められる場合には，学校として，警察に相談・通報を行う。

＜関係機関一覧＞　*※事案によっては，下記関係機関以外との連携もある。*

関係機関名	連絡先電話番号
松戸市教育委員会　児童生徒課	０４７－３６６－７４６１
松戸市子ども家庭センター	０４７－３６６－３９４１
松戸市子どもわかもの課	０４７－３６６－７４６４
松戸東警察署	０４７－３４９－０１１０
東葛飾地区少年センター	０４－７１６２－７８６７

２　重大事態への対処

(1)　重大事態とは

a　生命，心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがある場合

b　相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがある場合以上（３０日以上）

c　児童や保護者からいじめにより重大な被害が生じたと申し出があった場合

(2)　重大事態の対処

a　重大事態に対処する組織を設置するとともに，発生した旨を，教育委員会指導課へ速やかに報告する。

b　組織を中心として，事実関係を明確にするための調査を実施する。

c　調査結果については，いじめを受けた児童・保護者に対して，事実関係その他の必要な情報を適切に提供する。

d　調査結果を，教育委員会児童生徒課へ報告する。

３　学校いじめ防止基本方針やいじめについての取組の点検・評価・公表

(1)　学校いじめ防止基本方針について

a　いじめの防止のための組織を中心に，全教職員及び保護者等の参画を得ながら基本方針の点検や見直しを行う。
（第２回職員会議にて提案・学校教育反省会にて次年度改善）

b　学校ホームページで公表する。

c　児童や保護者及び関係機関に対して，学校いじめ防止基本方針について説明する。

(2)　いじめについての取組について

a　学校評価を活用し，いじめ防止の取組について，児童，教職員，保護者が評価する。

b　評価結果の分析に基づき，取組の改善を図る。

c　評価結果を公表し，児童，保護者，地域へと周知する。